

第5回城端線・氷見線再構築検討会 議事録

日 時：令和5年12月18日（月） 13：30～14：00

場 所：富山県庁4階大会議室

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

（事務局）

ただいまから、「第5回城端線・氷見線再構築検討会」を開催いたします。開会に先立ちまして会長の新田知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（新田会長）

本日は皆様、大変お忙しい中、5回目の検討会にお集まりいただきましてありがとうございます。前回第4回は、先月29日に開催しましたが、その場では、JR西日本さんから拠出金についてご説明いただきました。また、私どもからは、再構築実施計画の案をお示しして、皆さんで議論をしていただいたところでございます。そして、前回会議の最後に、私から、公共交通は社会のインフラであり公共サービスであるという考えのもと、自らの地域に対する投資へ舵を切ったということが何のためかということですが、子供たちが、将来通学に使ったり通勤に使ったり、それまで持続可能な鉄道であること、地域の責任として使っていこうという趣旨で申し上げました。県としても、県民の皆様にご説明をして参ります。議会が開かれておりますので、沿線4市の議会でも、それぞれ市長さんから説明してくださいというお願いをしたところでございます。

それでは本日は再構築実施計画の最終案について協議をしたいと思います。よろしく申し上げます。

3 議事

（1）城端線・氷見線再構築実施計画（案）について

（新田会長）

先月29日の第4回の検討会では、JR西日本の漆原委員から拠出金についてご説明いただいた後、再構築実施計画案をお示しして意見交換を行ったところです。

検討会の最後には、各市議会、県議会が開かれておりましたので、それぞれ丁寧にご説明いただきたいというお願いをしたところです。

まず、富山県議会はすでに閉会しましたが、関連も含め30問以上の質問が出ました。この件に関して多くの議論が交わされたところでございます。

本日まで議会も続いておられると思いますが、沿線4市の議会でのやり取りや、住民の方のご意見等ございましたら、ご発言願います。

(角田委員)

市議会、市民の皆様からご意見をいただきました。議会からは、市の負担の規模や、移管後も JR 西日本さんに関わりを持っていただくべきとのご意見、また、まちづくりと賑わいづくりにつなげていくために、しっかりとした未来の形を示すべきとのご意見や、移管に向けた協議の状況等、今後の進め方に対するご意見をいただきました。

また、市民の皆さんから、万葉線との接続の向上や、直通化と利便性の向上などについてご意見をいただいたところです。

こちら側からはそれぞれの現況をお伝えさせていただくとともに、両線の再構築を将来のまちづくりや賑わいづくりにつなげていくことが、私自身の務めであるということをご説明させていただきました。

(夏野委員)

議会からは、JR さんの拠出金の話、経営移管後もどう関わっていくかという話、資産譲渡はどうなるのかという話、それからなぜ急ぐのかという話があり、それぞれについて丁寧にお答えしたところであります。拠出金の金額については、JR さんの方で総合的に判断されたということと、使途がイニシャルだけでなくランニングにも使えるということで、金額の規模でも、また内容的にもかなりこれまでと違いますよという話であります。

一方で JR さんには移管で終わりではなくて、これからも物件の管理や資産譲渡までのいろいろな施設整備等についてご協力をお願いしたいという話をさせていただきました。実際 JR さんからも、人的、技術的な支援については明言されているのでそれも紹介させていただきました。

やはり、どうしてもなぜ急ぐのかということについて関心があったようですが、令和 2 年に LRT 化の話になってから議論をしてきたということ、もともと活性化推進協議会で県と 4 市、民間の団体の方も入れて協議をしてきた延長線であるという説明をしたところであります。従来の赤字黒字論ではなく、未来への投資や、将来を考えたときに、今がこのタイミングであるという話をさせていただきました。

(田中委員)

南砺市の議会は、質問者が 1 名で 5 問ほどだったと思いますが、ほぼ県議会の質問と同じ内容でございました。

私から議会の皆さんには 2 回説明をしまして、いろいろな質問をお受けしました。雪に強い城端線であるべきだということ、パターンダイヤを示した方がわかりやすいという話、スケジュールの問題、また拠出の話についても、私の思いを聞いていただいたというような質問のやりとりがありました。

私からは、道路を作る時と同じように、この社会インフラもしくは公共インフラというものがどうあるべきかということ、これからはしっかり説明をしていくということで、赤字という言葉ではなく、どのように社会インフラを投資として整備し、確保していくかということ、これから議員の皆さんとも話をまとめながら、地域の方

に広げていきたいと思います、投資としての説明をしていきたいと思います、という話をさせていただきます。また、5年後、10年後、それ以降の話も聞かれておりますが、逐次ご説明して、みんなで進めていこうということで、議会の方は概ね賛成をしますという話になっております。

(林委員)

氷見市の議会でも概ねご理解を得たと思っておりますが、議会からもご意見をいただきましたが、負担という点で、二つ大きな点が決まっていないと思います。

1点は、JR西日本さんからの資産の譲渡については、やはり無償譲渡が望ましいと思います。JR西日本さんのご英断をお願いできればありがたいと思っております。

もう1点、4市の負担割合は4市でまた詰めていかなければいけないポイントだと思っております。

その他、一昨日、市民説明会を開催いたしましたところ、JR西日本さんからの拠出金がなくなった後の経営安定をどうするのか、今のスキームでは5年後にあいの風になって、5年後、そしてまたさらに13年後という、今から23年後ぐらいまでのスキームはあるわけですが、そのあとは決まってないということで長期的なところについてどうするのか、というご意見がありました。

また、高岡駅での氷見線からの乗り換え利便性の向上であるとか、氷見駅からの二次交通の充実や、氷見駅周辺の賑わいづくりなどで氷見線に多くの方が乗っていただけるように、市としても、まちづくりと連動させながら進めてほしいというご意見が出たところでは、しっかりとまちづくりと連動させて、乗客を増やしながら、氷見線、城端線が持続可能な公共交通となるよう、市としても責任を持って、支援をしていきたいという話をしたところであります。

(新田会長)

市民説明会は結構来られましたか。

(林委員)

もうちょっと来ていただけるかと思いましたが、20人くらいです。非常に思いのある方に来ていただきました。

(新田会長)

ありがとうございます。それでは漆原委員からご意見や反応があればお願いします。

(漆原委員)

県議会や各市議会でのご議論につきましては、新聞報道等で拝見させていただいており、知事や市長の皆様が、城端線・氷見線の再構築の議論をまさに地域交通の再生に向け、投資という言葉もお使いいただいておりますが、前向きな議論として力強く進めていただいていることにつきまして、心より感謝申し上げたいと思います。

前回の検討会での議論や、県議会、市議会等の状況は社内でも共有しております、弊社の社長の長谷川も、本件は、今後の地域交通のあり方におけるリーディングケースになると受け止めているというところでございます。

改めて JR 西日本としまして、知事、市長の皆様のリーダーシップのもと、このような議論をさせていただきましたことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

どうもありがとうございます。

(新田会長)

あいの風日吉委員からもご意見があればお願いします。

(日吉委員)

当社としては特にございませんが、取締役会も開かれましたので、今までの検討状況等について説明させていただいたところです。

(新田会長)

それでは、実施計画案をお配りしておりますが、第4回以降に修正している点もあります。そのあたりを中心に事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1「城端線・氷見線再構築実施計画（案）の概要」、

資料2「城端線・氷見線再構築実施計画（案）」について説明

(新田会長)

ただいまの説明についてご意見やご質問をいただきたいと思います。

(角田委員)

公共交通は社会インフラであり公共サービスであるといった、これまでの県民、市民の皆さんの意識を変えていこう、そしてそれを我々が呼びかけていかなければいけないことを明文化することは大変良いと思います。

また、その他の部分も国土交通省さんと話をさせていただき、かなり前向きな表現になったと思います。利便性や持続性の向上は、未来に向けて我々が取っていかねばならない責任だと思っておりますので、そういったところもこの計画に盛り込んでいただいたので良かったと思います。

先日の検討会でも、JR 西日本さんから観光面でも利用促進を強力に推進するというご発言をいただきました。移管したら終わりではなく、移管してから始まるのだという認識のもとで我々もやっていきたいと思っております。城端線・氷見線が持続可能な路線となるように、人的、技術的な支援はもとより、本市には新幹線新高岡駅があることから、JR 西日本さんとは今後とも関係が続いていくものと思っております。ぜひ新幹線の利用促進の面でもご協力をいただければ、そして、砺波からも氷見からも

鉄道に乗ってきて新幹線に乗り換えていただくことでまた利用促進につながるという好循環を生んでいきたいと思っておりますので、引き続きお力添えをお願いしたいと思っております。

(夏野委員)

最初の3行が画期的だと思います。これを書かなければ一部にまだ誤解がありますが、やはり単なる赤字補填だとなってしまうと思います。こういった理念をしっかりと書いたこと、はっきりさせたことで、いろいろな方の理解という意味でも、我々の覚悟を示す意味でもよかったと思います。

今日決定できるようであれば決定して、気持ちよくスタートを切りたいと思います。

(田中委員)

前に進んでいくためにも素敵な計画ができたと思います。

(林委員)

最初の3行の公共交通は社会インフラという考えを持って、我々自治体が公共交通を守っていくということを打ち出せたことが良かったと思います。本当に持続可能なものにするには、利用者を増やしていくことが大事であり、9,600人を12,000人まで増やすということですので、まちづくりや、観光施策との連携という項目も示されておりますが、各市も相乗効果で利用者を増やしていけるようまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

(漆原委員)

基本的な考え方として、公共交通は社会インフラであり、公共サービスであること、地方公共団体の役割が投資であるという、富山県様の先進的なお考えを計画に記載いただいたということが非常に重要なポイントであると受けとめており、この計画の案に全く異論はございません。

弊社としましては、この計画の認定後に、着実に、記載されている施策を進め、まちづくりと移動のニーズに合った利便性の高い持続可能な公共交通を実現して参りたいと思っております。先ほどからご意見が出ている観光誘客の面におきまして、この沿線には本当に素晴らしい景観、歴史、伝統工芸、そして食といった、豊富な、魅力ある観光資源がたくさんございますので、私どもが得意としておりますプロモーションを広域的に展開し、観光誘客につなげてまいりたいと思っております。

その第一弾が、北陸新幹線の敦賀開業プロモーションだと思っておりますし、秋のデスティネーションキャンペーンだと思っております。それにとどまらず、引き続き、沿線の魅力をしっかりとPRし、観光誘客につなげることで、この城端線・氷見線が持続可能なものにしていけるように、私共として精一杯の協力を続けてまいりたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

(日吉委員)

城端線・氷見線の利用者増の取り組みがもちろん大事でございますが、今後あいの風とやま鉄道線と、効率的なダイヤ編成ができるということでございますので、その中で運行本数の増加のような接続の合理化、将来的にはタクトダイヤを進めるということ、それに合わせて、城端線・氷見線と当社線を合わせたフリー切符の造成などを考える必要があろうかと思えます。そのような取り組みを行うことによって、県東部と県西部が、相互に人の交流が活発になると思えます。その結果、城端線・氷見線が県全体の交通ネットワークを支える県西部の主要な路線になることも可能と考えております。当社も今後そうなるように努力していきたいと思っております。

(聒田オブザーバー)

前回の検討会におきまして、再構築計画の認定スケジュールがタイトになっているということを笠原からご報告させていただきました。改正された地域交通法において注目される中、スピード感を持って検討を重ねていただいたことに感謝申し上げたいと思えます。

計画の内容につきましては、城端線・氷見線のあいの風とやま鉄道への移管や、新型車両の導入、また運行本数の増加などが盛り込まれており、地域公共交通の再構築に向けた先進的かつ意欲的な計画だと思っております。

また、新たに創設させていただきました社会資本整備総合交付金につきまして、この制度を最大限にご活用いただいていると認識しております。

今後、関係者の皆様方の合意により、再構築実施計画の認定申請をいただいた際には、私ども運輸局としましても、しっかり本省とも連携をとり、内容について精査確認をさせていただき、適切かつ迅速に対応して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(新田会長)

ありがとうございます。各委員からご意見をいただきました実施計画案につきましては、ご了解いただけたのではないかと理解しております。この計画案で申請することにいたしたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(一同賛成の声)

ありがとうございます。皆様のご了解をいただきましたので、今後、国土交通省と申請に向けて事務的な調整を経た上で申請したいと思えます。事務局には対応をよろしく願いいたします。

せっかくの機会ですので、その他ご発言がある方はどうぞ。

(角田委員)

この間、県には強いリーダーシップをとっていただき、知事をはじめ、蔵堀副知事、事務局になっていただいた職員の皆さんに、このスピード感で素晴らしい計画を取りまとめていただいたことに、地域を代表して感謝をしたいと思っております。

1市単独ではできなかったことも、このメンバーが集まれば、これだけのスピード感で未来に向けて、県民市民の皆さんに、変わるんだというところをお示しできたことは大変良かったと思います。

20年30年先を見据えながら、しっかりこの計画を実行に移して、次の世代に渡していくという大変重い責任があると思っております。

引き続き皆様方にお力添えをいただきながら、皆さんと一緒に歩みを進めていければいいと思っておりますし、大臣認定が下りればいよいよスタートしていきます。皆さんと歩調を合わせながら進めていきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(新田会長)

ありがとうございました。そのほかよろしいでしょうか。

特にないようでしたら、以上をもって本日の議事は終了させていただきます。なお、この検討会は実施計画を作るまでがミッションであったかと思えます。この検討会の今後の取り扱いにつきましては、順調に認定が得られた段階で、改めてご相談させていただきたいと思えますがよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

それでは会議を終えるに当たりまして私から一言申し上げたいと思えます。

この検討会は、4月に改正された地域公共交通活性化再生法に基づく鉄道事業再構築実施計画の策定を目的に、改正法の施行は10月からでしたが、それを待たずに7月に設置をし、これまで5回にわたり検討を進めて参りました。

この間、事業主体をあいのとやま鉄道へ変更すること、利便性・快適性の向上に向けた取り組み、また、事業主体変更後の経営安定支援、JR西日本さんからの抛出など、毎回非常に内容の濃い議論を行うことができ、当初目標にしておりました年内の計画策定、これを今日取りまとめることができました。

委員の皆様には終始前向きなご議論をいただいたことに感謝申し上げます。

この計画は、城端線・氷見線が持続可能な路線として、利便性を高めて、将来にしっかりと引き継いでいくために、沿線市、JR西日本、あいの風とやま鉄道、そして県が、それぞれ強い覚悟を持って取りまとめた計画であると認識をしております。

一方で、現在、県の地域交通戦略会議でも議論されていますが、我々、自治体側は投資をするというふうに舵を切りました。住民の参画という視点も大切だと考えております。全国的にも注目いただいておりますが、この城端線・氷見線の取り組みを利用者である市民、県民の皆さんにもしっかりと伝えていくことが必要だと考えております。市民、県民の皆様、住民の皆様に、自分ごととしてご理解をいただくということによって、マイレール意識、路線への愛着が生まれ、それがひいては、今まで乗らなかった方が、1回乗られる、あるいは1回だった方が2回3回乗られる、そうやって利用増に繋がっていくのではないかと考えております。

県としても、様々な機会を利用して、丁寧に説明をしていきたいと考えますが、沿線市の皆様、そしてJR西日本様、あいの風とやま鉄道様におかれましても、引き続き

それぞれの立場で、それぞれの局面でご説明いただきますよう、お願いをいたしたいと存じます。

私から最後に、以上でございます。

皆さんには本当に熱心にご議論いただき、また円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

(事務局)

それでは以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。